

研究科長・学部長の任期を終えるにあたり —再び, Faith in Science—

研究科長・学部長
相原 博昭 (物理学専攻 教授)



理学系研究科長・理学部長を退任するにあたり、たいへんお世話になりました、研究科構成員の教員、職員そして学生のみなさまに、心からお礼を申し上げます。

この2年間の私の使命は、明らかで、好奇心に基づく科学研究の絶対的な価値を信じ、その上で、研究科内外に起因する現実の課題、問題に取り組み、研究科の研究教育環境の改善に努めることでした。世界トップレベルの研究力と教育力を維持するために、研究科の環境を世界トップレベルにする、そのために積極的に行動すべきだと思いました。東京大学は研究大学であり、理学系は、その研究を牽引する使命をもち、同時に、その能力を有すると信じています。私は、使命達成のために、国際化、多様化は必須であり、それに伴う困難は乗り越えるべきものだと思っています。全学で進む総合的教育改革についても、そのような立場で発言し、行動してきました。

東京大学理学系研究科・理学部の宝は、学生です。東大理学部・理学系のブランドは、世界中から優秀な学生が、ここで学びたい、あるいは、研究したいと集まってきてくれるからこそ成り立ちます。理学系の教員は、学生がある先生のところで学びたいと目指して来るように、圧倒的な研究力と業績を獲得すべく努めるべきだと思います。サイエンスの分野では、研究力無くして教育力はありません。

博士人材は、至宝です。理学系の研究現場から、優秀な博士を世の中に送り出すことこそが、東大理学系のブランドの礎だと考えます。これからも、あらゆる手段を講じて、博士人材の支援を強化、継続すべきだと思います。同時に、学部生、修士大学院生の教育についても常に見直し、学生にとって魅力のある学部・研究科であり続ける必要があります。学部教育としては、2014年度に始まるグローバルサイエンスコースの成功と発展を望んで止まら

せん。同時に、建物のようなハード面、さらに、さまざまな学生支援というソフト面の環境改善にもいっそう心を配る必要があると感じています。理学系研究科の教員、研究者は、科学のプロです。これまで通り、そして、これからも、より優れた研究とよりよい教育のために前へ進んで行くと思います。

最後に、再び, Faith in Science。科学への信念をもったプロ集団は必ず未来を拓くことができると信じます。人が科学をつくり、科学が人をつくります。理学系研究科・理学部は、大学が進むべき道を照らす力強く明るい光の元であると思います。「学」の重心は「理」にあります。あらためてみなさまからいただいた、ご協力、ご支援に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。